

第4回 一宮市都市計画マスタープラン及び立地適正化計画改定委員会

【開催日時】

令和6年6月26日（水曜日） 14:00～15:30

【開催場所】

一宮市役所本庁舎11階 1101・1102会議室

【出席者名簿】

別紙参照

【傍聴人】

1名

【議事内容】

1. 開催挨拶
2. 委員の紹介
3. 立地適正化計画の改定
 - ・立地適正化計画の改定について
 - ・防災指針策定に向けた災害ハザード情報の整理
 - ・防災指針策定に向けた防災上の課題の分析・整理
4. 今後の改定スケジュール

■立地適正化計画の改定について

○意見なし

■防災指針策定に向けた災害ハザード情報の整理について

○高潮の浸水想定区域について、市内の西部は広く浸水するが北側について浸水しない。高潮が発生する現象について説明してほしい。

⇒一般的に高潮とは台風など強い低気圧が来襲し、波が高くなると同時に海面の水位も上昇する現象である。ハザードは、日本に上陸した既往最大台風が最も高潮の影響を与える最悪のコースを通過した際に、堤防がすべて決壊した場合における浸水範囲を重ね合わせたものである。一宮市で最も影響が大きい河川が木曽川になるので、木曽川の堤防が台風の影響で決壊したというところを、各堤防の決壊地点において、最大の浸水深となるところを重ね合わせている。

○堤防の決壊を想定しているのであれば、決壊する箇所を図に示さないとハザードの信憑性がなくなるのではないか。

⇒この高潮の想定については、潮位による影響も加味している。上流からの降雨と海側の下流から水面上昇があるので、それが合わさった形で決壊が発生する想定である。南西部、海に近い木曽川の方ほど、氾濫の影響が大きく出て水位の上昇が大きくなる。

○水災害はハザードの違いが分かりづらいという特徴がある。同じ浸水している状態でも、例えば内水は、河川の水が流れてくるのではなく、市内に降った雨が川に流れず、水が溜まってしまう現象であ

る。一方、洪水は、河川の水が市内に入ってくる現象である。内水と洪水とでは、発生するメカニズムが大きく異なる。

○高潮について、隣接する市町のハザード情報を記載があればイメージしやすいのではないか。周辺の他市町などの浸水想定はどうなっているのか。

⇒今回、防災指針の資料としては一宮市だけに限定して記載している。高潮の浸水想定区域図を見ると、木曽川や庄内川といった大きな河川沿いに被害が出ており、上流部よりも下流部に浸水被害が大きく出る傾向がある。広域図について掲載するか検討する。

■防災指針策定に向けた防災上の課題

○災害の影響の大きさの視点で、高齢者について災害リスクの分析をしているが、子供または子育て層、障害をお持ちの方、防災情報が届きにくい外国の方など分析も入れることは可能か。また、シミュレーションについて現在の人口か、将来の推計の人口なのか。

⇒シミュレーションについては令和2年度の国勢調査の人口実績であり、推計結果の分析は行っていない。介護福祉機能、子育て機能、商業機能、医療機能といった都市機能誘導施設について、今後分析に含めるかどうか検討する。

○現行の立地適正化計画のP38の目指すべき都市構造の中に、居住誘導区域外に地域生活拠点がいくつかあり、多くの人が生活している。防災上の観点から地域生活拠点においても施策を打つ必要あるのではないか。

⇒市街化調整区域の方針については、昨年度改定した都市計画マスタープランで定めていくこととなる。市全域の防災・減災対策については、地域防災計画及び地域強靱化計画で対応していく。

○立地適正化計画策定時に居住誘導区域に災害リスクがあることを承知の上で設定したと思うが、策定以降ハード整備やソフト対策について、どのように対策が取られているのか。

⇒本市の関連計画の中に総合治水計画があり、浸水被害の軽減のため様々な対策をしている。雨水貯留施設整備や広域的な観点から河川整備や治水対策を行っている。ハード整備とソフト対策の具体的な取り組みについては、次回の改定委員会で提示していく予定である。

○避難した先で避難所が浸水している場合が想定される。水災害を考えた時の避難所の在り方は検討されているのか。

⇒地域防災計画に記載があると思われるため、確認し後日回答させていただく。

（後日回答）地域防災計画において、避難所の開設する場合は、あらかじめ施設の安全性を確認するものとしている。また、避難所が万一危険になった場合、再避難等についての対策を講じ、混乱のないよう適切な措置をすることとしている。

○次回の改定委員会は、災害リスクが確認されている居住誘導区域をそのまま残すのか、除外するのかの議論になると思う。その際に、現在どういう取り組みをしていて今後どういう取り組みをしていくのか整理する必要がある。

○人口分布は、居住している人口で検討しているが、実際には都市生活の状況、昼夜間の人口状況に

よっても変わってくる。また、居住誘導区域の全域で、ハザードがかかっている状況を踏まえると、いかに災害に対して早期に対策を取るかが重要であり、さまざまな対策を検討したうえで最終的に居住を誘導するべきかどうか判断していく必要がある。

■今後の改定スケジュールについて

○パブリックコメント前に商業施設で広く市民の意見を聞く機会を設けるとのことだが、開催時期にはいつを予定しているのか。

⇒9月の下旬に1週間程度、商業施設内のブースに防災指針のパネルを展示し、市民の方に周知、意見をいただく機会を設けようと考えている。

○防災活動を熱心に取り組んでいる地域の方には、積極的に声をかけて周知、意見を聞いていただければと思う。

○キキクル等で大小の河川状況や線状降水帯の状況も事前に把握することが可能となってきた。いち早く情報を収集し、正しい避難行動につなげていくことが重要である。

⇒：事務局回答

閉会